



常盤平団地のスターハウス



21世紀の森と広場

R5.2.13 第14回松戸市まち・ひと・しごと創生懇談会

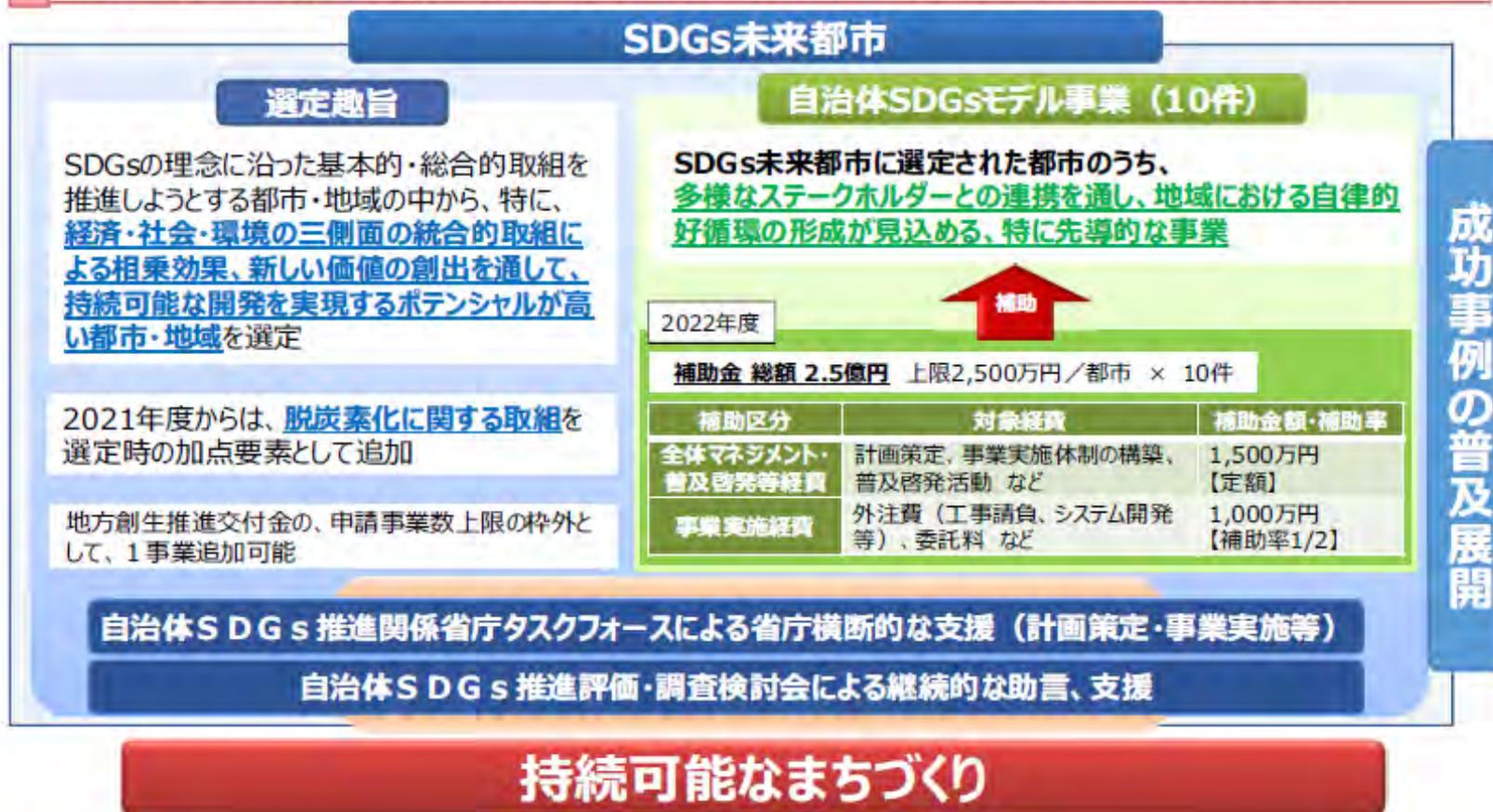
資料5

SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業について

松戸市 総合政策部 政策推進課 市政総合研究室

SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業について

- 概要**
- 中長期を見通した**持続可能なまちづくり**に向けて、地方創生に資する、地方公共団体によるSDGsの取組みをさらに推進していくためには、**モデルとなる先進事例の創出**と、**普及展開**が必要。
 - 我が国の「SDGsモデル」の構築に向け、地方公共団体によるSDGsの達成に向けた優れた取組を提案する都市を「SDGs未来都市」として選定。また、特に先導的な取組を「自治体SDGsモデル事業」として選定し、補助金による支援を行う。⇒2021年度までの4カ年で「SDGs未来都市」124都市、「自治体SDGsモデル事業」40事業を選定。
 - 地方公共団体の取組を支援するとともに、**成功事例の普及展開**を行い、全国の地方創生の深化につなげる。



自治体SDGsモデル事業立案の背景

地域の特性

- ・都心への交通アクセス性の高さ^と豊かな自然を兼ね備えた**住宅都市**
- ・一般市の中で最大の「**人口50万人**」規模
- ・**子ども・子育て支援**が重点施策のひとつ

課題

- ・高度経済成長期に整備された**都市基盤（大規模団地等）の更新**
- ・都心へのアクセス性の高さ等ゆえの**Z世代の市内定着性の低さ**
(市内10高校/市内4大学からの市内就学・就職率：**約5%**)



Z世代

※概ね1990年代半ばから2010年代に生まれた世代を指し、本事業では、主に高校生・大学生をメインターゲット

- ・市内4大学※の学生中心に**SDGsに興味を持ち、行動できるZ世代**がいる
※聖徳大学、千葉大学園芸学部、日本大学松戸歯学部、流通経済大学。各々と包括協定を締結。
- ・**Z世代の人たちが地域に愛着を持つための仕組みづくり**が必要



常盤平団地 エリア



常盤平団地のスターハウス

常盤平団地エリアの世代別構成割合
(令和3年12月時点)

- ・常盤平団地は、URが建設した初期の**関東最大規模団地**の1つ
- ・1960年4月入居開始当時：**時代の最先端エリア**
- ・建設当時からグリーンベルト緑地帯として、**豊かな緑が残る**
- ・現在は…高い高齢化率 **約50%** (市全体約26%)
高い外国人比率 **約10%** (市全体約4%)
Z世代～子育て世代は**エリア内から市内外への流出**

	15歳未満	15-24歳	25-34歳	35-44歳
市内全域(A)	11.3%	9.7%	11.8%	12.9%
常盤平団地エリア(B)	7.7%	8.2%	9.2%	9.9%
市内と団地エリアの割合差	-3.7%	-1.5%	-2.5%	-3.0%

⇒**持続可能なコミュニティ形成**が必要

2030年
あるべき姿

多世代が共にいきいきと思い思いに暮らすことができる やさシティまつど
～つよくしなやかに みんなで松戸の新たな時代を創ろう～

自治体SDGsモデル事業(経済・社会・環境)の取組

Z世代を起爆剤に多様な主体が奏でる常盤平団地エリアのリ・ブランディング

⇒常盤平団地エリアで、地域住民、ステークホルダー、Z世代が一緒になって、エリアの魅力を高める

経済



【課題】

- 地域経済の発展に地域のネットワーク力が活かしきれていない
- Z世代への松戸の魅力の発信が足りていない

【実施の方向性】

IT・コンテンツ産業の推進など、Z世代と市内で特徴的な産業とのマッチングを進め、地域のネットワーク力を高める。

【実施例】

- 多様なワークスタイルの実現
- IT・コンテンツ産業の推進
- 空き家や空きテナントの利活用促進
- 地域農産物の商品開発を中心とした地産地消の促進



新京成電鉄と地元企業が連携した梨ビールの開発

社会



【課題】

- 子どもやZ世代と団地住民との接点が少ない
- 市民活動との共創により地域コミュニティを活性化していく必要がある

【実施の方向性】

常盤平団地が地域に開かれた場所として、子どもやZ世代が、様々な地域の人と関わり、社会課題を自分ゴト化しながら、社会で活躍する機会をつくる。

【実施例】

- 子どもの遊びの創出と研究
- Z世代へのボランティア事業のマッチング (Let's体験・プロボノMATSUDO)
- 常盤平団地エリアでのレジデンス事業の検討



常盤平団地のスターハウス

環境



【課題】

- 地域のグリーンインフラの保全と継承が必要
- 脱炭素型・循環社会のまちへの転換

【実施の方向性】

グリーンインフラや農産物の保全と継承を進めながら、Z世代や地域住民にエリアの魅力と価値の理解を促し、脱炭素・循環共生型の社会の実現に貢献する。

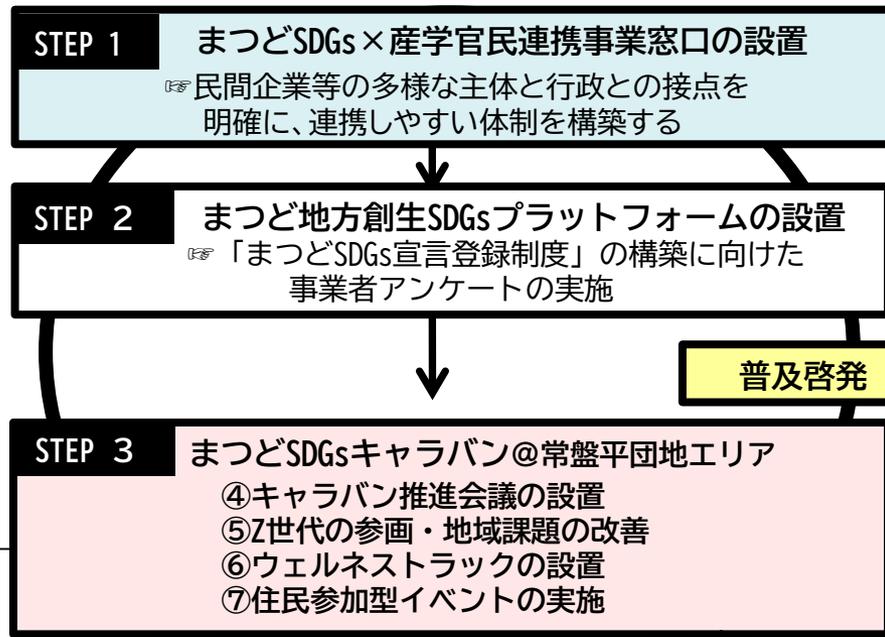


【実施例】

- グリーンインフラを活用した交流機会の創出
- グリーンインフラを活用したウェルネストラックの整備検討
- 環境負荷の少ない交通システムへの転換 (シェアサイクルの検討等)



自治体SDGsモデル事業(三側面をつなぐ統合的取組)



普及啓発

SDGsについて親しみを持ち、様々な行動の自分ゴト化に近づける。

④ まつどSDGsキャラバン推進会議の設置

常盤平団地自治会、UR都市機構、新京成電鉄、市内4大学(聖徳大学、千葉大園芸学部、流通経済大学、日本大学歯学部)、事業に参画する大学生

⑤ Z世代の参画と地域課題の改善

Z世代の着眼点や発信力を活かし、常盤平団地エリアの魅力向上策を提案する。

⑥ ウェルネストラックの設置

ウェルネストラックとはウォーキングコース、屋外サイン、WEBコンテンツが一体となった健康プログラムのこと。

常盤平団地エリアの豊かな緑を活用し、地域の魅力向上と住民の健康促進の研究を一体的に実施する。

⑦ 大学による住民参加型イベント実施

パートナーシップを通じた地域活性化として、地域課題の解決につながり住民も参加できるイベントに対する補助を実施